



ふちんかん

## 大阪港の人工島

大阪港の3つの人工島である咲洲・舞洲・夢洲。それぞれ「州」と書いて「しま」と読む。1991年の公募でつけられた名前だそうだ。当初は3島とも宅地化し、新都心となる計画だった（テクノポート大阪計画）。

最も開発が早く進んだ咲洲は、大阪メトロの中央線とニュートラム線が走っている。南港タウンにはピーク時に3万人、現在でも2万人が暮らしているので、大阪市の一大住宅地として機能していると言える。しかしバブル崩壊で、舞洲・夢洲の住宅地化は頓挫した。舞洲はスポーツ施設やゴミ処理施設などの公共施設、民間の物流センターとして利用が進んだ。残る夢洲だが、オリンピックの誘致失敗で、「負の遺産」などと言われるようになった。今回の大阪万博とその後の統合型リゾート（IR）計画で失地挽回を画策中といったところか。

## 夢洲からの脱出ルート

さて今回の取材地である夢洲に出入りする手段は2つのみ。

一つは咲洲とを結ぶ夢咲トンネル。これは自動車道が先に開通し、本年（2025年）大阪メトロ中央線が開通した。もう一つが舞洲とを



結ぶ夢舞大橋である。この橋は「夢洲駅」開業と同時に歩道が開放された。夢咲トンネ

ルが自動車専用道路であるため、歩行者や自転車での行き来は、夢舞大橋一択ということになる。今回は夢洲から舞洲へ、この夢舞大橋を歩いて渡ってみた。



別日に撮影していた夢舞大橋（左が舞洲・橋の奥が咲洲・右が夢洲）

## 世界初の〇〇橋

夢洲を後にして舞洲へ向かう。道は一本しかない  
ので誘われるように夢舞大橋へ。

車道部はトラックやトレーラーがひっきりなしに  
走っているが、歩道部はたまにサイクリングの方と  
すれ違う程度で利用者はほとんどいない。まあ夢洲舞洲  
間を歩いて行き来するような用務は想像できないから当然  
と言えは当然。



### さてこの橋のトピックは「世界初の浮体式巡回可動橋」

ということだ。なんでも咲洲・夢洲間の航路が使用  
できないときの代替航路としての使命があるため、  
橋を動かせる構造になっているらしい。具体的には  
橋脚部分の土台が浮棧橋になっており、いざという  
ときはタグボートで曳航できる構造になっているの  
だとか。たしかに橋脚の陸地側には、巨大な円筒状  
の構造↓があった。この中にあるピンを土台側に挿  
すことで回転軸となるらしい。



当然だが歩行中は橋そのものが  
浮いていることを実感することは



通常時



開橋中



開橋完了時

大阪市HPより

無かった。30分あまりかけて渡橋を完了、舞洲に到着した。

(終)